



写真 2 マイクロ・コンピュータによる星像の認知の1例。上が元の画面で、下はこれを処理して星像の存在をはっきりさせたもの。

が同時に監視できることによって、望遠鏡の細かな動きの不調や突風時の動き等が判明し対策を施すことができた。また、暗い天体の確認が楽な姿勢で、しかも複数の人間で行なえるため観測能率が向上した。オフ・セット・ガイドも望遠鏡の姿勢によらず、常時楽にできること、またガイドの精度も $2''$ 以内には大体おさえられることによって観測精度も向上した。暗い天体の場合、TVガイド導入以前と比べると約2倍の精度の向上が見られた。

観測能率を上げるためには、集光系も含めた観測装置の能力向上が必要なことはもちろんであるが、現実には周辺の機能が観測精度、観測能率を決定している場合も少なくないと思われる。現在日本で使用されている光学望遠鏡は建設時にはコンピュータによる制御等を予測していなかったために、周辺機能の充実を計る際に思わぬ困難に会うこともあるが、観測装置が本来の能力を発揮できるようにしたいものである。

しかし、周辺機能が整備されるにつれて新たな問題も生じている。TVガイド装置のように、イメージ・インテンシファイヤ、撮像管など寿命のあるものに対する備えが必要となる。また、周辺機能の一部が故障しても、観測全体に影響することは避けられないので、装置の維

持にはこれまでよりも神経を使わなければならないであろう。

多色偏光測光装置による観測もやっと人並みになって来た段階である。周辺機能を良くしながら感じたことは、観測精度、観測能率、あるいは観測研究の質は、直接または間接的関係を持つものの中で、最も質の悪い部分で決定されるということである。

本稿に述べた諸作業は、飯塚吉三、昆野正博、柴崎肇、西野洋平、野口本和、三上良孝、山口達二郎氏と協力して行なったものである。

お知らせ

野辺山宇宙電波観測所研究員公募

研究分野： 電波天文学に関する研究

募集人員： 2名以内

任 期： 2年未満

待 遇： 日本学術振興会奨励研究員と同額程度

研究場所： 原則として長野県南佐久郡南牧村野辺山宇宙電波観測所とする。

応募資格： 大学院修士課程修了または、それと同等以上の者で、当研究員に専任する者。

提出書類： 履歴書、研究計画、論文リスト（共著の場合は役割分担を明記）および主要論文の別刷。希望の研究場所が野辺山でない場合は、その理由書。

公募締切： 1982年4月24日

選 考： 野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会

書類宛先： 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
東京天文台庶務掛

そ の 他： 封筒の表に「野辺山研究員応募書類在中」と朱記のこと。

